

|      |  |  |        |   |
|------|--|--|--------|---|
| 科目名  | 多文化共生教育特論  | 科目コード                                    | 17P-S4 |  |
|      |  |  | 21P-K5 |   |
|      | 科目群名   | (2017年カリキュラム) 基幹科目<br>(2021年カリキュラム) 関連科目 |        |   |
|      | 必修/選択  | (2017年カリキュラム) 選択必修<br>(2021年カリキュラム) 選択   |        |   |
|      | Advanced Seminar on Multicultural Kyosei Education | 教職                                       | 小・中・高  |   |
| 担当教員 | 山梨 彰   | 単位数                                      | 2      |   |

## 【授業概要】

「多文化共生教育」の含意は、「障害者」、LGBTQ、ジェンダーなどの様々な文化集団に関わるが、この授業では「外国につながる人々」に焦点を当てて考えてみたい。社会的な背景を見た時、多くのメディアを通して私たちは日本社会が事実上の「移民社会」に変貌しつつあることを知っている。グローバリゼーションの急速な進展のもとで、異なる国家や地域、民族(エスニシティ)を背景にする人々が出会い、偏見・差別のない関係を結び、それぞれの文化や歴史の異質性を相互承認し、社会的公正を実現して「共生」することが、現在そして近未来の世界的な課題である。「多文化共生教育」を学ぶ意義はここにある。

授業では、基本概念の理解を踏まえ、アメリカの「多文化主義・教育」の歴史と理論も参照軸として、公正で対等な関係性のもとでの「多文化共生」の教育の理念・歴史・現状を考えることを大きな柱とする。さらに、外国につながる人を招いて、日本社会のなかでの具体的な生活者としての思いを受け止めて、それに答える教育とは何かを考えてみたい。なお、受講者の状況に応じて授業内容や参考文献などは柔軟に対応する予定である。

## 【授業の到達目標】

1. 「多文化共生教育」(多文化教育)の理念・概念を把握する。その際、「多文化主義」の理解の鍵となる「人種」「民族」「移民」「国民国家」などの基本概念の理解も深めていく。
2. アメリカと日本に焦点を当てて、多文化共生教育(多文化教育)が20~21世紀の中でどのように展開してきたかを歴史的に、かつ概念理解を中心にして把握する。
3. 現在の日本での特に「外国につながる」児童・生徒の教育に注目して、彼らが置かれている現状を多角的に検討し、法制面や教育政策の現状、将来の展望を把握する。

## 【授業の形態】

メディア授業の実施【あり】

<授業の特徴> (毎回実施に◎、適宜実施に○を付けてください)

| 形態         | 実施 | 具体的に実施すること                              |
|------------|----|---|
| 講義         | ○  | 多文化共生教育(多文化教育)の理念と歴史。外国につながる児童・生徒の現状把握。 |
| グループワーク・質疑 | ◎  | 多文化共生教育の各テーマに関するトピックに基づいたディスカッション。      |
| 演習         |    |   |
| プレゼンテーション  | ◎  | 各文献や論文をまとめ要約したものを学生が発表。                 |
| 制作         |    |   |
| その他<br>( ) |    |   |

【授業計画】(順序が変わる場合があります)

| 回  | 内 容  |
|--|--|
| 1  | 多文化（共生）教育の概念と歴史（その1）（文化、人種、民族、エスニシティの概念）           |
| 2  | 多文化（共生）教育の概念と歴史（その2）（多文化社会の形成過程、国民国家と移民の概念、移民の世界史） |
| 3  | 多文化（共生）教育の概念と歴史（その3）（多文化社会における社会統合～アメリカの事例）        |
| 4  | 多文化（共生）教育の概念と歴史（その4）（多文化社会と多文化教育）                  |
| 5  | 世界レベルでの問題の把握（UNESCO、国際人権に関わる諸宣言・諸条約）の理解と検討から       |
| 6  | 日本社会の「多民族性」～歴史と現状（その1）（戦前と戦後の立論）                   |
| 7  | 日本社会の「多民族性」～歴史と現状（その2）（戦後の多民族社会の進展状況）              |
| 8  | 日本社会での外国につながる人々の置かれている現状                           |
| 9  | 日本の外国人政策（国、自治体レベル）                                 |
| 10   | 多文化共生教育の課題（その1）（「日本人性」の概念を中心に）                     |
| 11   | 多文化共生教育の課題（その2）（日本の学校システムの脱構築と再構築に向けて）             |
| 12   | 「当事者」の声を聞く、対話をする                                   |
| 13   | 外国につながる生徒に対する授業の実態と分析（その1）                         |
| 14   | 外国につながる生徒に対する授業の実態と分析（その2）                         |
| 15   | 多文化共生のために教育に求められること～各自の発表を含めて                      |
| <b>試験</b>  |  |
| <p><b>【履修上にあたっての準備】</b><br/> ・行政関係の資料は、インターネットからダウンロードできます。①教育再生会議第9次提言（2016）、②文部科学省「学校における外国人児童生徒などに対する教育支援の充実方策について」（2016）、③法務省「多文化共生の推進に関する研究会報告」（2018）④ユネスコ「国際理解、国際協力及び国際平和のための教育並びに人権及び基本的自由についての教育に関する勧告」（1974）見つけるのが大変だったら、私が用意します。<br/> 下の【参考図書】は余力があれば、読んでみてください。英文の本は入手しにくいと思うので関連箇所を私が用意します。</p>  |  |
| <p><b>【授業外学修（予習・復習）】</b><br/> 予習：次回の授業で教科書を分担して内容のレジュメを用意しておいてください。<br/> 復習：前回の授業で学修した内容について、「振り返り」をまとめておいてください。</p>   |  |
| <p><b>【評価方法】</b><br/> 「授業内で課すレポート評価」（50%）、「科目修得試験」（50%）の割合で総合して評価する。</p>   |  |
| <p><b>【教科書】</b><br/> 馬淵仁編（2017）『「多文化共生」は可能かー教育における挑戦』勁草書房</p>  |  |
| <p><b>【参考図書】</b><br/> 小熊英二（1995）『単一民族国家の起源』新曜社<br/> 信愛塾編（2017）『信愛塾文庫第4集 外国人との共生』信愛塾<br/> ダイアン・グッドマン（2017）『真のダイバーシティをめざして』上智大学出版<br/> 文部科学省総合教育政策局（2019）『外国人児童生徒受入れの手引き 改訂版』明石書店<br/> 「外国につながる子どもたちの物語」編（2020）『クラスメイトは外国人 課題編』明石書店<br/> 松尾知明（2010）『多文化教育をデザインする』勁草書房<br/> 松尾知明（2017）『多文化教育の国際比較』明石書店<br/> 森茂岳雄他編（2019）『社会科における多文化教育』明石書店<br/> Wayne Au(ed.)(2014):Rethinking Multicultural Education, 2<sup>nd</sup> ed.,A Rethinking Schools Publication</p> |  |